



Team石川



小中一貫CSだより第57号 令和2年12月22日 文責：千葉 敦

めざす子ども像(15歳の姿)：将来への憧れ・夢・希望・目標をもち、意欲的に学習に取り組み、自分の考えや想いを豊かに表現できる生徒

石川中学校区学校運営協議会 開催

12月1日(火)に、今年度3回目の石川中学校区学校運営協議会が、石川小学校を会場に開催されました。

当日は小学校の参観日も兼ねており、運営委員の方々には、まず小学校の授業を参観してもらいました。この日、1年生から5年生までは、10月のコロナによる休業で中止になった学習発表会の内容を公開しました。また6年生は、9月に行われた修学旅行の報告会を開きました。その後、協議会に移り、小・中両校長からそれぞれの様子について説明がありました。下記に概略を掲載します。続いて、委員の方々へ、小・中それぞれの教育活動へのアンケート(学校評価)をお願いし、情報交換をして終わりました。



2月には、今回お願いした学校評価の報告をし、来年度に向けた話し合いをする予定です。評価の結果については、地域の方々にも誌面を通じてお知らせする予定です。

◎石川小・中学校の様子(小・中で共通している内容)

- ・いじめは、2学期以降はない。暴力行為や非行等の問題行動もない。
- ・欠席や別室に登校する児童生徒について、それぞれ家庭と連携して対応している。
- ・児童生徒への必要に応じた個別の丁寧な指導を、全職員共通理解の基で行っている。
- ・スマホや携帯の所持率が上昇しているため、情報モラル教育は継続していく。



「子供達を支援する会」へ感謝状贈呈

石川中学校区の児童生徒に、物心ともに支援して下さった「子供達を支援する会」が、11月27日(金)に、その永く献身的な活動に終止符を打ちました。同日、石川中学校体育館で、同会会長工藤良憲様の次女由美子様に、木村傑石川中学校長から感謝状が手渡されました。そのような事は陸奥新報にも掲載され、ご覧になった方も多いと思います。

「子供達を支援する会」は、毎年石川中学校を会場に、様々な分野で活躍する著名な方々を講師にお招きして、生徒の進路に関わる「ふれあい授業」という講話会を毎年開催されました。ここ数年は、石川小6年生児童も「ふれあい授業」に参加していました。また、「ふれあい授業」の感想文をまとめた「少年よ世界をめざせ」を、毎年発行しました。この活動は、石川小中学校の児童・生徒のキャリア教育に大きく貢献しました。会員だった方々は、これからも地域住民として暖かく子供たちを見守ってくださるそうです。ありがとうございました。



陸奥新報社提供

元石川小学校長今井則三氏 「満開の桜」を刊行



今井元校長先生(右)

活用させていただきます。興味ある方は、ぜひご連絡ください。

平成9年の本校創立百二十周年記念には、長澤氏を始め当時の訓導3名が招待され、中庭に桜を植樹したそうです。その桜に寄せて題名を「満開の桜」としたそうです。平成30年10月に、その桜が花を咲かせました。季節外れで珍しいということで、テレビや新聞で報道されたので記憶されている方も多いと思います。今井氏も報道を見て、しばし回顧に浸ったそうです。

11月27日(金)に元石川小学校長今井則三氏(在任平成5年度～8年度)が石川小学校を訪れ、ご自身の著書「満開の桜」を寄贈してくださいました。

太平洋戦争終結直前の昭和20年7月に、東京都荏原(現品川)区の中原国民学校の子どもたちが石川小学校に集団疎開をしました。当時の引率責任者である長澤英男氏が、平成5年に本校を訪れ今井元校長と懇談し、集団疎開記録抄を渡しました。本はその記録抄が中心で、当時の学校生活や食生活、衛生状況、児童たちの苦労のようすが克明に記録された貴重な内容です。平和教育の一助として、